

# 梅之木通信

## 【縄文住居をつくる会】

第7号 2019.9.8 発行

### 竪穴の本格的な穴掘りが始まる

土地の神様へのご挨拶も終え、いよいよ竪穴掘りの開始です。

『重機（パワーシャベル）だったら一日もかからないのに、』という声も聞かれますが、ここは“大人の遊び場”なので、効率重視ではなく仲間と和気あいあい、楽しさを優先して作業を進めます。

作業の手は止まっても、口の方はなかなか止まりません。とても一人ではやる気の起こらない作業ですが冗談を言いながらだと苦労もあまり感じないのが不思議です。

★ 8月24日 久しぶりの好天にも誘われて、かつてないほど多くの人が穴掘りに集まりました。

まだ草が生えていたところから地面が現れ始めると、床面の広さがはっきりと判り住居の大きさが明らかとなって、住まいの規模が実感できます。



急遽作成することになった  
鍬ですが威力を発揮します



土を掘り起こすには鹿の角が役立ちます。しかし、大きな石に当たると時々？鉄器（スコップ）が登場します



人海戦術の甲斐もあり、  
それなりに縄文の住まいが  
現れてきました



★ 9月6日 ほぼほぼ掘り進んだところで、床が平らに掘られているかどうかを確認してみます。  
当時はどのような手段を用いたのか判りませんが、我々もできるだけ原始的な手段である水を使って水平面を割り出してみました。 傾斜地にあることもあり、目の錯覚からか、思いの外水平になっていなかったことが判明。 『まあ、こんなところで良いんじゃない』という、ふるさと倶楽部の“ゆるやかさ”が出たのかもしれませんが。 出入り口と、柱を立てる場所を決めて『ほぼ完成！』と喜んでいましたが、、、翌日、その喜びも一日で終わることになるとは（涙）。



★ 9月7日 柱位置の穴掘りを進めます。  
遺跡発掘調査後、本来の遺跡の上に砂を敷き詰め、その上に残土で盛り土されているとのことなので、砂が埋まっている深さまで試掘りを進めます。 前日の試掘りでは、砂らしきものが掘り出されてきた為遺跡まで到達してしまう事を心配して30センチほど掘ったところでやめていました。 小村さんに掘り出された砂を確認していただいたところ、砂ではなく単に岩石が風化したものであることが分かりさらに掘り進めて70センチほど掘り進めたところで砂の層に到達。 砂の層までの深さが明確になり一安心。 深さに対する心配が無くなったところで、今度は谷側の盛り土が流れてしまうが懸念され、枝を切って柵を作りながら更に全体的に掘り下げることになりました。  
まだまだ、縦穴掘りは終わりません！！



【お知らせ】 ◆9月29日の『ふるさと倶楽部まつり』で、私達『縄文住居をつくる会』も活動内容の展示と皆さんが作った石斧を使って、きこり体験ができるコーナーを開設します。 同好会メンバーでも参加できる日程が合わず、石斧での伐採体験が出来なかった方や、メンバー以外の方々にも、石斧が樹に食い込んでいく感触を味わっていただきたいと思い準備を進めています。 皆さんもさることながら、お知り合いにも声をかけていただいて私たちのコーナーに足を運んでいただければと思います。